

希少種保護をきっかけとした人工海浜への愛着心育成



徳島県 徳島市
沖洲海浜楽しむ会



3 活動の成果や波及効果等

海浜が完成し利用が始まる前に、希少種保護と海浜利用を両立させるためのルールについて話し合い、様々な関係者の相互理解のもとでルールを作ることができました。また、完成当初は近隣の住民に認知されていなかった海浜の存在・創られた目的・利用ルールが、当団体の活動によって地域に広まり、自主的に海浜保全活動が行われるようになったことも、活動の成果だと考えています。

難しいとされる「希少種保護とその生息環境と人の利用との両立」の実現に向けて試行錯誤している事業情報を、他事業の参考になるよう、これからも発信し続けていきたいと思っています。



ルールづくりの状況を地域に伝えるチラシ。沖洲地域の家庭に配布した。



地域内外から親子が参加する、夜の生き物観察会



毎夏実施している希少種の市民モニタリング調査

所在地
徳島県徳島市沖洲

活動主体及び連絡先
沖洲海浜楽しむ会

対象となる社会資本
マリンピア沖洲人工海浜
※管理者：徳島県
(088-621-2660 徳島県県土整備部)



1 社会資本の概要

マリンピア沖洲人工海浜は、徳島県を流れる吉野川の河口にあります。この海浜は、①高波などに対する防災機能、②海遊びなどの親水機能、③希少種の生息環境の代償、の3つの目的で創られました。海浜は、緩やかな勾配で、波浪が低くなるよう設計

されているため、とても穏やかな水域となっており、小さな子供と一緒に安心して遊べる場所です。幅約300mの大きさの海浜では、一様な環境ではなく海の生き物だけでなく、在来の海浜植物が茂り、様々な花や昆虫も観察することができます。



静穏な海浜



保護対象昆虫：ルイスハンミョウ

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

埋め立てられる前の沖洲地域では、魚とり漁や板海苔づくりなど生活の糧を得る場所としてだけでなく、海水浴場など憩いの場所として海浜が利用されてきました。一方、徳島県では現在この地域でしか確認されなくなった海浜性昆虫ルイスハンミョウが生息しています。新しく作られた海浜は、人の海浜利用と希少種保護の両立という難しい課題を抱えて

います。そこで、関係する人たちが集まり、海浜利用のルールをつくとともに、ルールを伝え、地域の子供たちと一緒に沖洲海浜で遊び&学び、海浜を地域の宝として見守っていく場所とするための活動を始めました。希少種保護に対しては、大学や地元企業とも連携して調査を行い、根拠となる科学的データをもとに、順応的に海浜整備をしています。



年2回実施している地域学童との海浜清掃



大学や地元企業とともに調査や再整備を実施

喜びの声



受賞発表登壇者

受賞者
会長 上月 康則

コメント
沖洲人工海浜でのルイスハンミョウの保護を通して、子どもを中心にしたふるさと学習を行っています。生物の保護は一朝一夕にできるものではありませんが、その分多くの方々との協働できる機会にもなっています。本賞受賞を地域や行政の方々とともに喜び、海浜とルイスハンミョウが故郷の誇りとなるように、さらに活動を発展させていきます。

活動の内容
・年4回の観察会
・地域学童との海浜体験活動
・希少種の市民モニタリング調査
・希少種と海浜環境の調査 など

活動の経緯
2009年 沖洲人工海浜完成
2009年 海浜利用のルール作り
2010年 海浜利用開始
以後、海浜が地域の宝となるよう活動を継続中

手づくり郷土賞

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編

手づくり郷土賞

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編